

大学における e-Learning 活用支援が授業改善に対する教員の認識に及ぼす影響-支援体制の充実に向けたアンケート結果から-

The effect of e-Learning support on faculty members' recognition of course improvements in a university - From the result of questionnaire survey toward an enhanced support system-

仲道 雅輝^{**} 根本 淳子^{**} 鈴木 克明^{*}

Masaki NAKAMICHI Junko NEMOTO Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院教授システム学専攻^{*}

愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室^{**}

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University^{*}

Center for Information Technology, Instructional Design Office, Ehime University^{**}

E-mail: nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

＜あらまし＞ 実践対象校において、教育デザイン室を中心としたe-Learning普及推進策の実施を通じて、授業改善に取り組んできた。今回、これまでの支援に対する教員評価とともに、授業改善に対する認識を知り、さらに効果的な授業改善支援策を見出すことを目的としてアンケート調査を行った。その結果、支援体制への適切さが示されるとともに、e-Learningを活用した授業改善の成果を実感した教員が多く、さらなる改善への動機を高めたことを示す結果が得られた。

＜キーワード＞ 高等教育, e-Learning, 教員支援, 教材開発, 授業改善

1. はじめに

実践対象校では、e-Learning 普及推進策を進める教育デザイン室を2013年度に立ち上げ、学内支援を行ってきた(仲道, 2013)。開発支援体制の取り組みにより、授業構成の見直し支援や著作権処理の代行、スライド教材のブラッシュアップ、ICT活用事例の紹介など教員の技術面での不安と心理的負担感を軽減することに力を入れた結果、e-Learningの普及推進に一定の成果を上げることができた(仲道, 2014; 2015)。

今回、これまでの支援に対する教員評価とともに、授業改善に対する認識を知り、さらに効果的な授業改善支援策を見出すことを目的としてアンケート調査を行った。

2. 方法

2.1. アンケート調査の実施

調査は、2015年5月14日から6月3日に実施し、対象は、2014年度に教育デザイン室のコンテンツ制作等の支援(動画教材の作成やMoodleコース作成など)を受けた教員の該当者27名である。調査項目は5段階で回答を求め、Moodleのアンケート機能を用いて調査用紙を配信し、返信をもって同意とした。

2.2. 分析方法

5段階評価で得られた回答は項目ごとに集計し、各回答の割合を算出し比較した。自由記述は類似する記述を意味内容で分類した。

3. 結果

3.1 回答者の属性

回答者24名(回収率88.9%)のうち、教授3名、准教授13名、講師2名、助教3名、職員4名であった。4名の職員は、科目責任者の教員とともにキャリア形成や障がい学生支援に関する授業を担当している職員である。経験年数は、5年以内5名、10年以内7名、15年以内2名、20年以内4名、21年以上6名、不明1名であった。

3.2 アンケート調査の結果

1) 教育デザイン室の支援について

「コンテンツ制作の際の支援や対応の適切さ」については、「適切だった」が72%、「概ね適切だった」20%、「どちらでもない」が8%、「やや適切でない」、「適切でない」は0%であった。

「制作したコンテンツへの満足度」については、「満足している」が28%、「まあ満足している」が60%、「どちらでもない」が12%、「あまり満足していない」と「満足していない」は0%であ

った。

2) 授業改善に対する認識について

授業改善への認識についての質問 20 問の内、最も「そう思う」の割合が高かったのが「授業改善に取り組むことは、教員の義務だと思う」で、70.8%であった。回答結果を図 1 に示す。

3) 支援内容への要望

開発したコンテンツの満足度について、その理由を聞いた質問では、学生の反応に関するものやコンテンツ自体の完成度、Moodle の機能に関する事、作成によって改善の方向性が見えたことなどが挙げられていた。

自由記述の内容を整理したところ、教育デザイン室の役割や機能に関する広報の充実を望む意見や継続的な支援を望む意見、良いと思うことを積極的に実施してほしいなどの意見があった。

4. 考察と今後の展望

教育デザイン室の支援体制に対する質問では、「適切だった」と「おおむね適切だった」を合わせると 90%を超えており、コンテンツ制作への支援が適切であるとの評価を得ていることが分かる。また、制作したコンテンツの満足度については、「満足している」と「まあ満足している」を合わせると 90%弱であり、高い満足感を与えるコンテンツ制作ができていたことを示している。また、その満足感に影響する要因としては、

理由の回答から、学生の反応が影響していることが推察できるとともに、映像や教員の要望をできる限り反映したコンテンツであることが満足度を高めていると考えられる。これらから、コンテンツ制作を通じて授業改善の支援を行う際は、教員が学生の反応をどのように掴んでいるのかやどのような完成形を望んでいるのかを丁寧に聞き取り、実現していくことが有効であると考えられる。

授業改善に対する認識の回答結果からは、授業改善による学習支援効果を実感しているのみならず、教員自身の充実感をもたらしていることが示されており、コンテンツをとともに作り上げることで、教員が授業改善に取り組もうとする動機を高める効果があると考えられる。支援内容に対する要望では、広報不足を指摘する内容や、より積極的な支援の展開の要望が見受けられた。今後、教育デザイン室の支援内容に関する広報活動を充実させるとともに、より効果的な e-Learning 活用に向けた支援方法を取り入れ、より良い支援を提供していきたい。

参考文献

- 仲道雅輝, 鈴木克明 (2013), 授業設計および教材作成支援による大学での e-Learning 普及推進の取り組み, 日本教育工学会第 29 回全国大会予稿集, pp. 805-806.
 仲道雅輝, 根本淳子, 鈴木克明 (2014), 大学での e-Learning 普及推進の取り組みによる効果, 日本教育工学会第 30 回全国大会予稿集, pp. 611-612.
 仲道雅輝, 根本淳子, 鈴木克明 (2015), 全学的な e-Learning 普及推進の方策と成果, 大学教育学会第 37 回大会発表要旨集録, pp. 150-151.

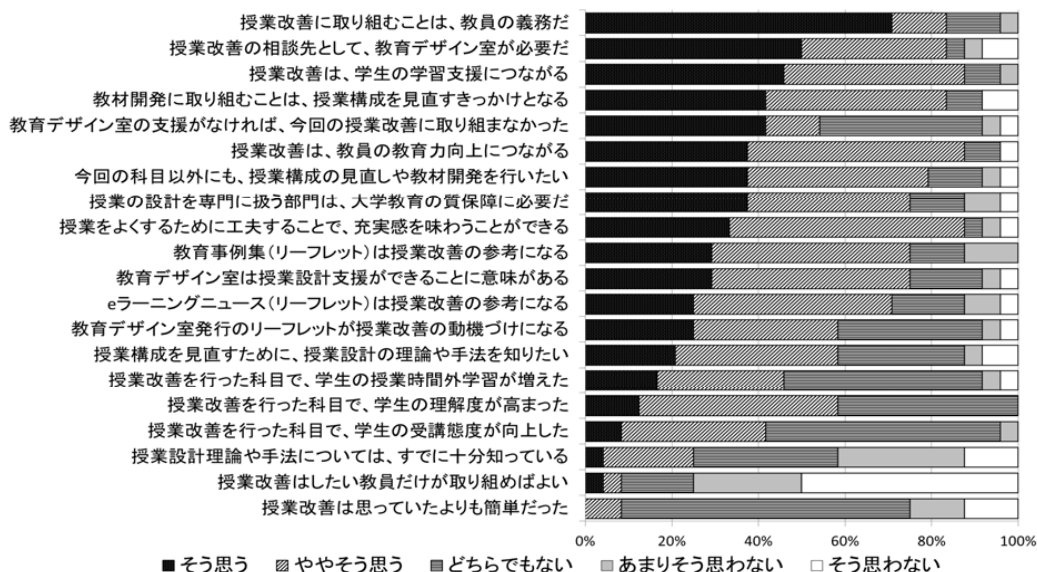


図 1 授業改善に対する教員の認識に関する質問の回答結果 (n: 24)